

第1部 基本構想

第1章 丹波市の将来像

第1節 将来像(実現すべきまちの姿)

豊かな自然と美しく懐かしい田園風景、人情味溢れる人々が住む“わがまち丹波市”は、昼夜の気温差が大きい独特の気候風土に育てられた丹波大納言小豆や丹波栗など、「丹波ブランド」の産地です。

わたしたちは、先人が築いてきた環境や文化を守り、“人”“自然”を基本に、「人與人」、「人と自然」と、その「交流」を通して、ふるさとに誇りと愛着を持つ人材を育み、丹波市らしさを創造するため、次のような将来像を掲げます。

将来像：『人與人、人と自然の創造的交流都市』

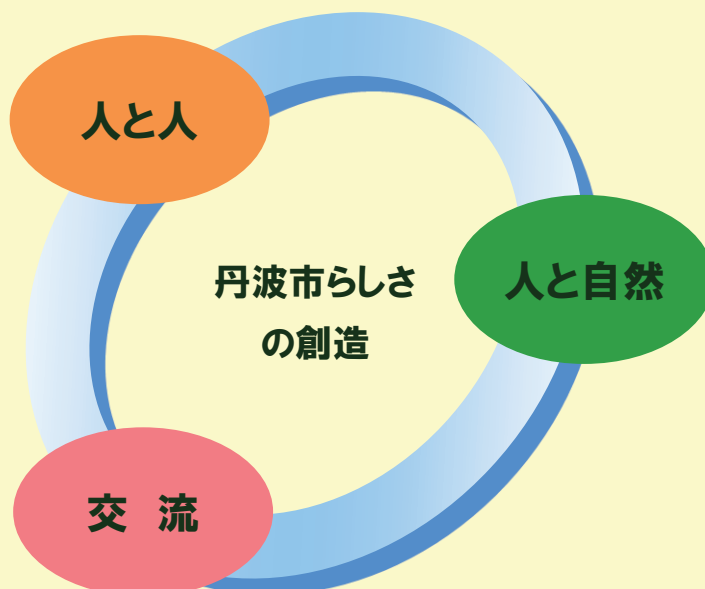
また、将来像に掲げるまちの姿を、市民と行政が共有しやすくするため、市民に親しみの持てる将来像としてサブタイトルを位置づけます。サブタイトルは、前期基本計画期間である5年で見直すこととします。

サブタイトル：「～みんなでつなぐ丹（まごころ）の里～」

＜将来像の概念図＞

「人與人、人と自然の創造的交流都市」

～みんなでつなぐ丹（まごころ）の里～



■将来像にこめたわたしたちの思い■

“人と人”

■わたしたちは、旧6町の特性を活かしながら、心を合わせて、丹波市の基礎を築く努力を重ねてきました。わたしたちの理想とするまちは、市民主体のまちであり、市民一人一人の人権が尊重され、多様性を認めて助け合うまちです。

“人と自然”

■丹波市は、加古川水系と由良川水系が接する源流域に位置する中央分水界のまちで、年間において、昼夜間の寒暖差が激しく、秋から冬にかけて発生する丹波の山々をつつむ朝霧、夕霧は「丹波霧」と呼ばれ、豊かな自然環境に一層の深みと神秘さを醸しだしています。この恵まれた自然と人との共生が、丹波市の未来を創造します。

■丹波市の総面積の約75%を占める森林、そして、里山や懐かしい田園風景に象徴される農地などは、人が適度に手を加えることにより、地域住民の生活に密着したものになり、人と自然が共生する社会を築くことになります。

“交 流”

■古くから、山陰道を中心とした数多くの街道がはりめぐらされた丹波市。それゆえ、人も風も水も行き交い、多様な文化が混在し、今に受け継ぐ独自性に富んだ食文化は、全国への大きな発信力を有しています。

今も昔も交通の要衝である特性を活かし、広域的に様々な交流を広めることが、丹波市の未来を創造します。

■人口減少社会を迎えた今、交流人口の増加や定住化が大きな課題となっています。人々の交流が、地域の魅力を客観的に意識し、新たな文化の創造や市民の誇りにつながるでしょう。森林や里山、農地、豊かな風土を資源とした都市との交流や地域の交流は、すばらしい未来創造につながるものです。

《創 造》

■長い年月の中で培われた多彩な歴史・文化や産業には、先人たちの生きる知恵と技術が込められており、生活の隅々にまで行き渡る創造性豊かな発想力で作り上げられたと言えるでしょう。これらを更に発展させて次世代へ引き継ぐことが、わたしたちの責任であり、また、すばらしい未来創造につながります。

■「人と人」の対話やつながり、「人と自然」の共生や融合、そして先人の「知恵と技術」を未来への原動力とすることは、創造的都市を実現することになります。

■先人が築き上げた「丹波力（地域のヒトやモノが持っている総合力）」に磨きをかけ、新たな産業や文化の創造に向け、果敢にチャレンジすることが、誰もがいきいきと暮らす丹波市につながります。

○サブタイトルにこめたわたしたちの思い○

市民と行政（みんな）の連携を強化し、先人から受け継いだ恵まれた自然環境との調和（つなぐ）を図りつつ、家族や身近な人との絆を深める（つなぐ）とともに、地域でのつながりを大切にする（つなぐ）人づくりに取り組み、丹波市の理念スローガンである「丹（まごころ）の里」の実現をめざし、郷土愛を育みます。

”みんなでつなぐ”

○市民同士や市民と行政がお互いに支え合い、助け合う絆を深め、地域や市の将来を見つめながら、世代や地域を越え、みんなが手を取り合うつながりによるまちづくりを進めていきます。

”丹（まごころ）の里”

○「丹（まごころ）の里」は、平成20年に商標登録しており、丹波市でしか掲げることのできない言葉であり、丹波市の独自性や個性を表現できます。

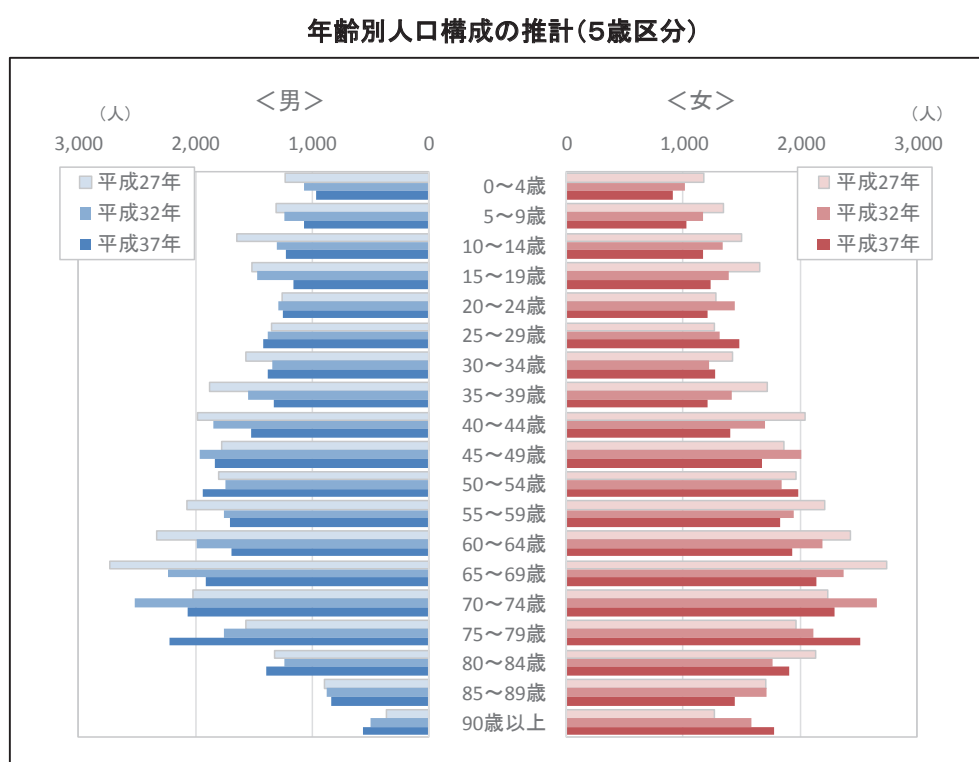
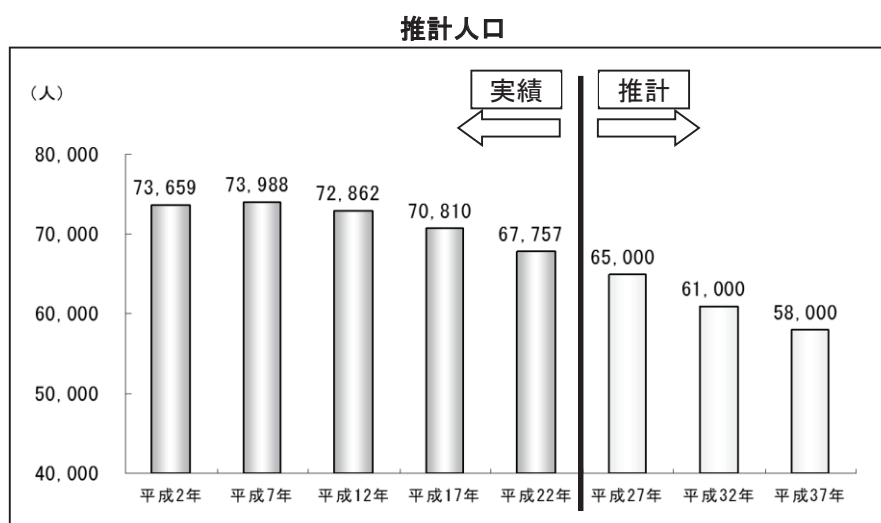
○「丹」には「赤色」のほかに「丹精を込めて」や「丹念に」などの言葉にあるように「まごころ」の意があり、丹波市への愛着と誇りを育て「六つの里」でひとつの丹波市になって、住民同士の連帯感を高め、市の振興・活性化を行っていかうという熱い思いが込められています。

○市外の方に丹波市を知ってもらい、来てもらい、ファンになってもらい、住んでもらいたい。たくさんのまちの中から丹波市を選んでもらえるよう「丹（まごころ）の里」によるイメージ戦略を進めます。



第2節 推計人口

近年の人口は、平成 7 年から減少傾向にあり、平成 22 年 10 月 1 日現在（国勢調査）67,757 人となっています。今後も減少傾向が続き、目標年次である平成 37 年には概ね 58,000 人程度になることが推計されます。



(注)実績値は国勢調査(各年 10 月 1 日現在)

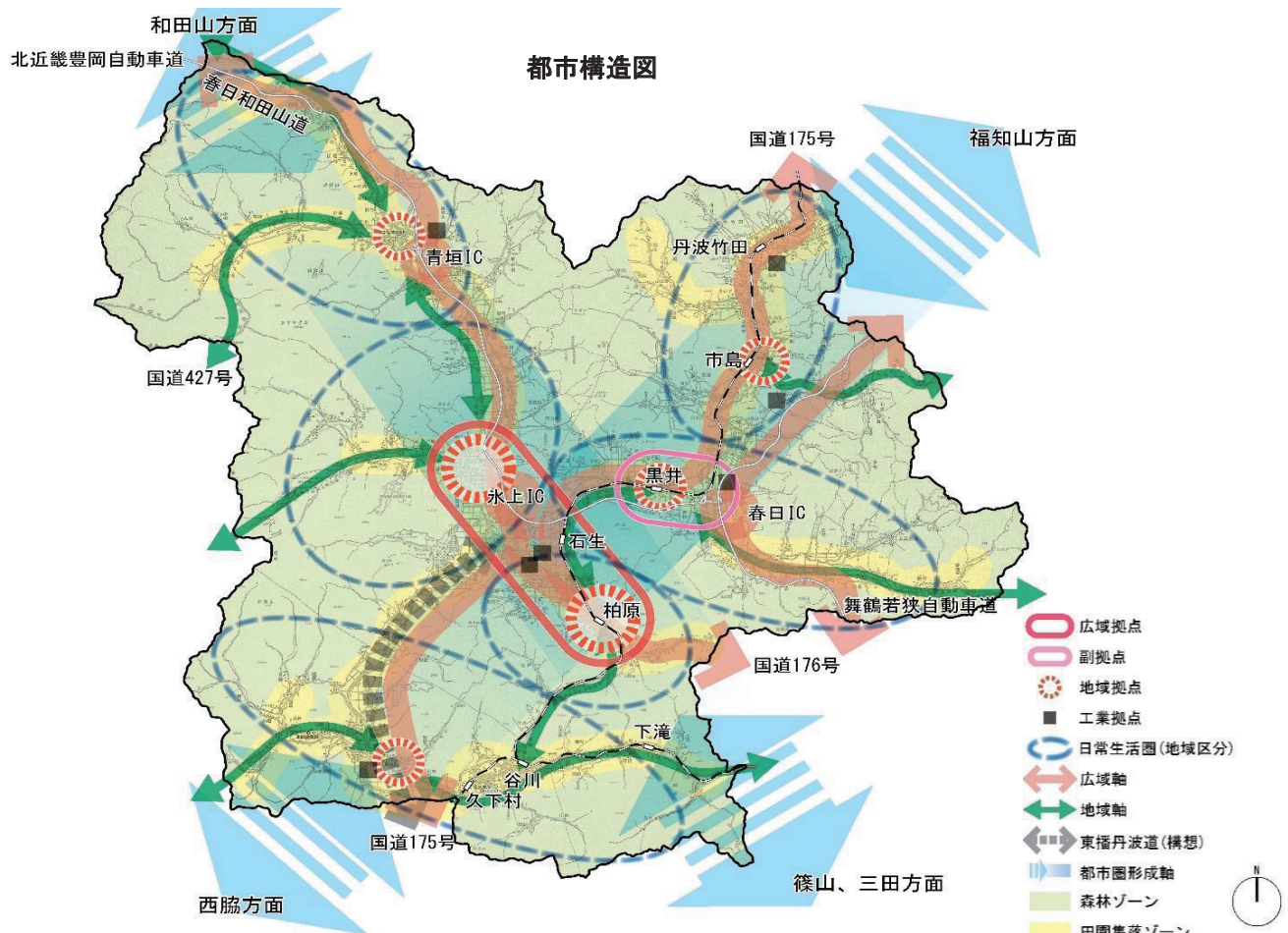
推計値は、「市区町村の推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)平成 25 年 12 月」の値。

今後、本市の人口は減少が見込まれますが、定住人口の維持、社会動態人口の増加とともに、仕事、学び、観光、文化・スポーツなどの交流人口の増加、さまざまな社会活動に携わる活動人口を活性化させる施策を総合的に展開することにより、まちの活力の維持・向上に努めます。

第3節 都市構造

将来のまちの構造は、今後の土地利用の方向性を示すもので、“拠点”“軸”“ゾーン”で構成されます。

本市固有の“人”や“自然”などの丹波力を保全・活用し、安全で安心な土地利用を確立するとともに、にぎわいと活力のある広域拠点と、それを補完する副拠点や地域拠点を周辺地域に設定することで、広域的な集客力をもつ広域拠点と周辺地域の日常生活圏の核となる地域拠点がバランス良く両立した都市構造を形成します。



区分	構成要素	内容
拠点	広域拠点	商業・産業・観光・交流等の各種都市機能が集積し、市内外から多くの人やモノが集まる、にぎわいと活力の中心拠点。
	副拠点	広域拠点の機能を一部担い補完する拠点で、特に広域交通利便性を活かした商業・文化・交流・産業などの都市機能を担う拠点。
	地域拠点	買い物、診療、子育て、福祉等の生活機能を支える日常生活圏の拠点。
	工業拠点	計画的に工業・流通等の機能を高め、本市の産業活力を牽引する拠点。
都市軸	広域軸	高速道路網及び主要国道等からなる、広域的な連携・交流の交通軸。 (現在構想中の東播丹波連絡道路も含む)
	地域軸	広域軸を補完して市内各所を結び、地域間の連携・交流を支える交通軸。主要地方道等。
	都市圏形成軸	本市の発展方向を示すイメージ軸。人・もの・経済を吸引し、活力の市内循環を創出する独自の「丹波市都市圏」の形成をめざす。
日常生活圏		歴史的なつながりの強い既存の集落や地区のまとまり。地域ごとのコンパクトで持続的な暮らしを形成する圏域。
ゾーン	田園・集落ゾーン	農地、集落、住宅地等が調和した、快適な生活環境を形成するゾーン。
	森林ゾーン	豊かな自然環境を有する森林環境を保全するゾーン。

第2章 まちづくりの視点

まちづくりの視点は、本市の個性と魅力に磨きをかけ、持続可能なまちづくりを実現する上で、第1章の将来像で示した「人と人」「人と自然」「交流」の3つを視点として、常に踏まえるべき共通の考え方を定めたものです。

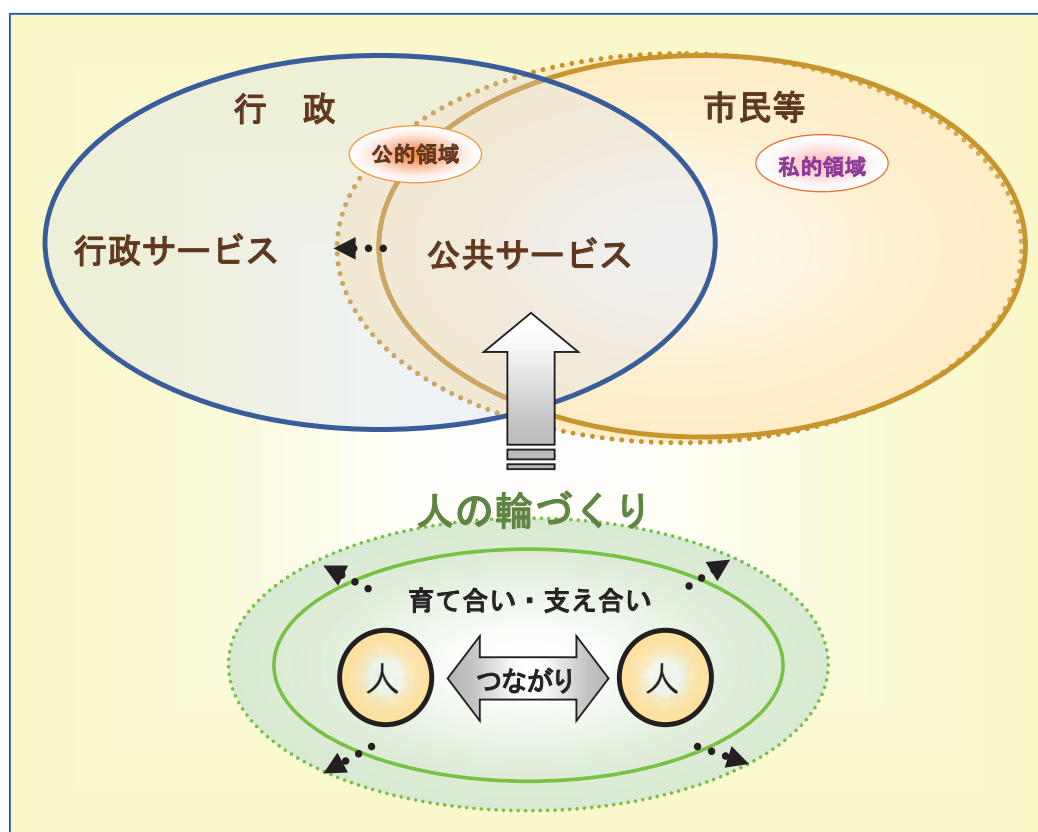
■「人と人」を視点とした丹波市らしさの創造 視点1 育て合い支え合える人の輪づくり

本市には、地域医療を住民の手で守ってきた団体に代表されるように、様々な理念や目的をもって活動するボランティアや市民団体、NPO*等が数多く存在し、公共サービスを支える貴重な地域の活力源となっています。

今後、人口減少・少子高齢化が加速する中、市民一人一人が、身近な地域に関心を持ち、人と人とのつながりを大切にしながら、子育てや高齢者の見守りなど各分野における地域課題に対し、地域の担い手として自発的に取り組む環境を整えることが非常に重要となっています。

郷土に誇りと愛着を持つ子どもを地域ぐるみで育てることで、成人した子どもたちが、行政や様々な活動団体と連携し、必要な支援を必要な人に提供できるよう、市民誰もがライフステージに応じた役割を担い、**育て合い支え合える人の輪づくりを進めることで「丹波市らしさの創造」**をめざします。

育て合い支え合える 人の輪づくりのイメージ



*私的領域：その人自身の意志で決定し、自分の行動で完了できる領域。

*公的領域：その人自身では解決できず、行政又は多様な主体が担う領域。

■「人と自然」を視点とした丹波市らしさの創造

視点2 人・自然・産業・暮らしが循環する“源流のまち”づくり

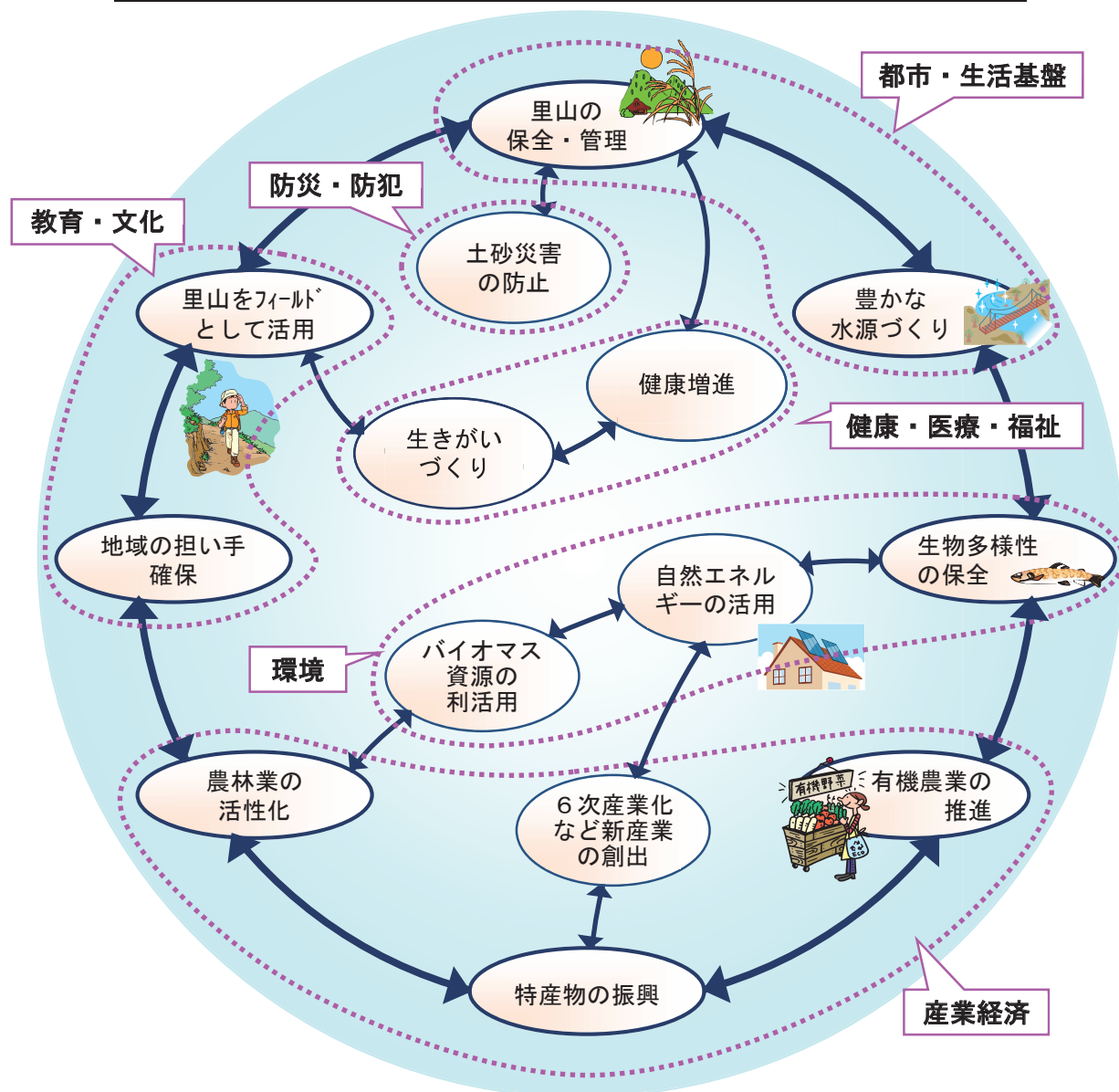
本市は、加古川水系と由良川水系の源流域に位置し、^{とうとう}滔々と流れる河川や美しい木々の緑、そこに生息する生物など豊かな自然環境に恵まれており、これらの自然と人々の暮らしが調和した里山が長年にわたり形成され、まちが栄えてきました。

一方で、森林や農地の維持管理などの問題が広く発生しています。

今後、人口が一層減少する中で、これらの自然を持続的に守り育てていくためには、単に自然を保全するのではなく、自然環境の再生・創出に積極的に働きかけることで、自然環境を活用した産業や暮らしを創出し、地域の活力を生み出す仕組みを構築することが重要です。

そのため、人・自然・産業・暮らしが循環する“源流のまち”づくりを進め、「丹波市らしさの創造」をめざします。

人・自然・産業・暮らしが循環する“源流のまち”づくりのイメージ



■「交流」を視点とした丹波市らしさの創造

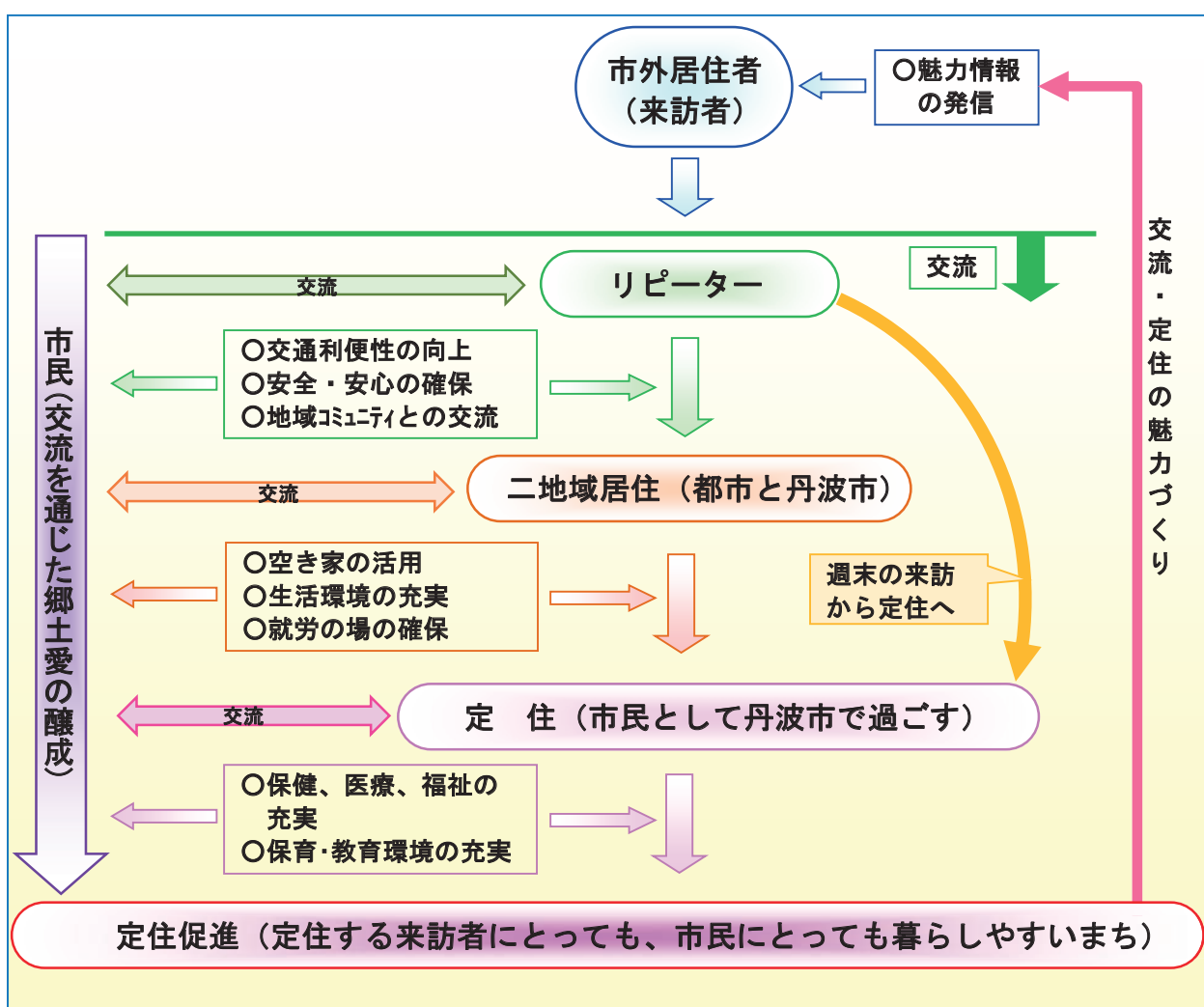
視点3 来訪者を“丹(まごころ)”で迎える交流・定住の魅力づくり

本市には、地域資源が数多く存在しており、農業を中心とした丹波市ブランドの定着など認知度向上に向けたさまざまな取り組みを進めていますが、十分な魅力の発揮、丹波市としてのアイデンティティ※の確立にまでは至っていません。

特に定住促進は本市の重要な課題であることから、まず、本市の魅力を多くの人に知ってもらい、実際に訪れてもらうことが必要です。そこから来訪を一過性で終わらせるのではなく、訪れた人が地域の魅力に満足し、リピーターとなり、「交流」へ発展することにより、人や暮らしにも魅了され、定期的に滞在する新たなふるさととなるよう取り組んでいくことが非常に重要です。

訪れた人を“丹(まごころ)”のこもったおもてなしで迎え、人と人とのふれあいを通して、新たな文化や価値観を創造し、**交流・定住の魅力づくりを進めることで「丹波市らしさの創造」**をめざします。

来訪者を“丹(まごころ)”で迎える交流・定住の魅力づくりのイメージ



第3章 基本姿勢

基本姿勢は、将来像を実現するために定めるまちづくりの目標を推進するにあたって、すべての分野において共通する行政の基本的な姿勢を定めたものです。

基本姿勢1 市民が主役の豊かな地域力【参画と協働】

～市民力、地域力の向上に向けて～

■参画と協働の考え方

本市では平成 24 年4月から「丹波市自治基本条例」を施行しています。この条例は、市民、市議会、行政が連携・協働して住みやすいまちをつくっていくときの基本ルールを定めたものです。

今後も、自治基本条例を基本として、住みよいまちづくりのために公共サービスの提供や本市をとりまく課題の改善・解決の取り組みを通して、市民・各種団体等と行政がそれぞれの役割と責任を自覚しながら、地域の資源や特性を活かしつつ協力・連携して大きな成果を創りだす、協働のまちづくりを推進します。

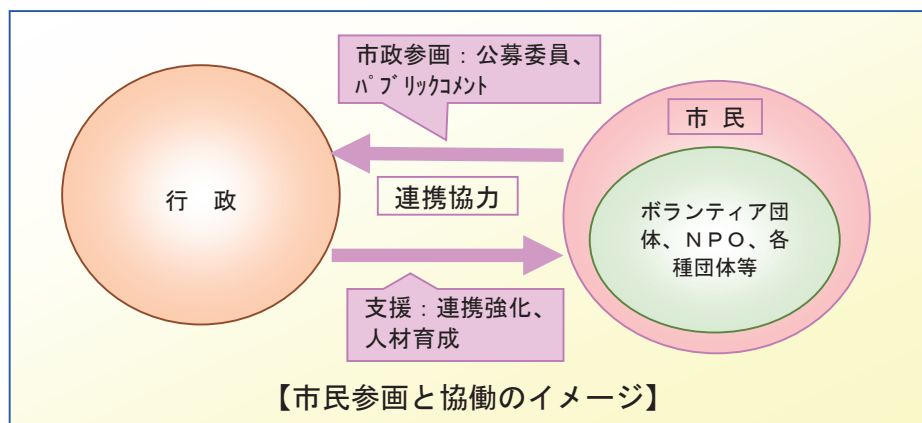
	対象と役割
市民・事業者	・対象は、市内に住む人、市内で働く人、市内に通学する人、市内で活動する事業者。 ・日頃から市政に関心を持ち、まちづくりの担い手として積極的に参画する。
地域	・対象は自治会、自治協議会、ボランティア団体、NPO等の公益的な活動団体。 ・市民が個人では解決できない課題について、地域で協力することで、より高度な課題解決に取り組む。
行政	・地域で解決できない課題、法令に基づく課題等について、広域的な視点から課題解決に取り組む。

■協働のまちづくりの推進と市民参画・市民活動の促進

協働のまちづくりを推進するため、審議会等での公募委員の選任や計画づくりでのパブリックコメント・アンケートの実施などにより、市民の市政への参画を促します。

また、本市では、子育て支援や里山保全・活用、農林業や商工業、観光振興、定住促進等に関わる様々なボランティア団体やNPO、各種団体等や自治協議会による活発な活動が行われています。

今後、各種団体の連携を強化するとともに、担い手となる人材の育成などを通じて市民活動や自治協議会活動を促進します。



基本姿勢2 計画的かつ効果的な行政経営【行財政運営】

～行財政運営の安定化に向けて～

■市民のニーズに合った行政運営

市民ニーズが多様化、複雑化する中で、地方分権の進展に伴い、自治体においては自主性と自立性を高めた行政運営が求められています。

本市においては、市町合併から10年を経て、今後、普通交付税の算定が段階的に減額されます。合併特例債の活用が5年間延長されたものの平成31年度で終了することから、地域の実情にあった公共施設の再配置、本庁と各地域の支所の適切な役割分担を行うことで、効率的な行政運営を進めていきます。

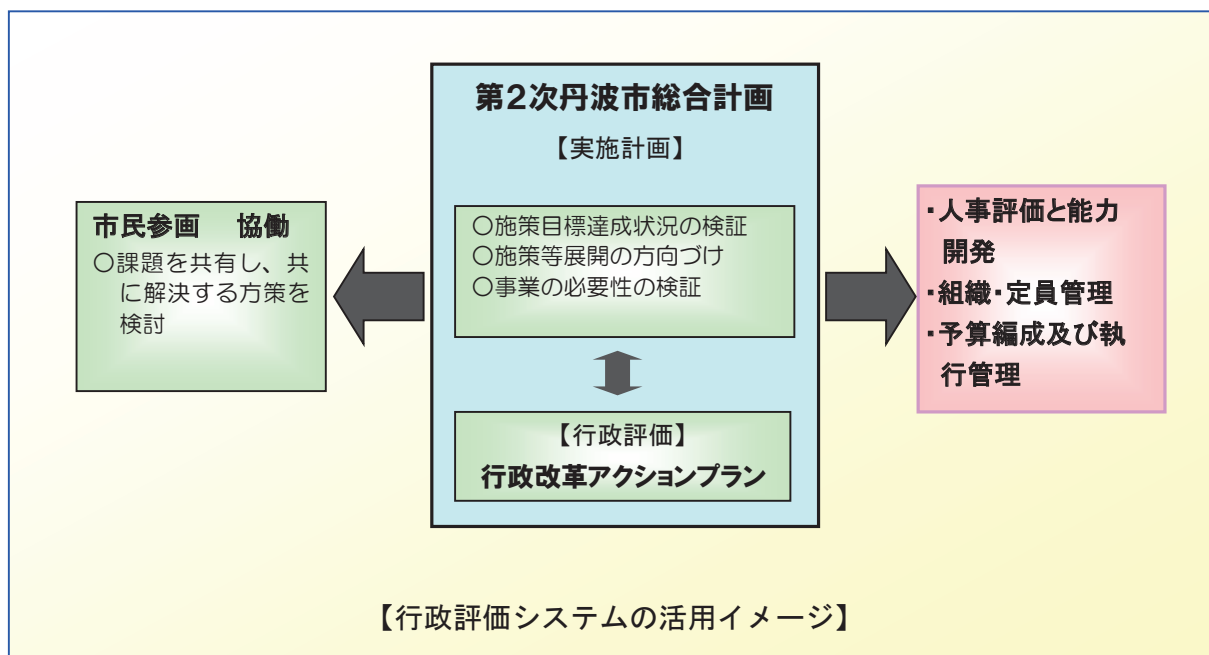
また、庁内においても、行政改革大綱に基づき、職員数の適正化、職員の能力にあった人員配置を進めるとともに、庁内組織の横の連携強化に努めます。

さらに、多様な手段による情報発信、情報収集を行うことで、市民ニーズの的確な把握に努めるとともに、本市の魅力を積極的に発信します。

■選択と集中による財政運営

財政構造の大きな転換、財政規模の縮小が進む中では、効率の良い行政サービスの実施が必要であることから、行政評価システムを有効に活用することで、事業の「選択と集中」を行い、将来を見据えた安定的な行財政運営に努めます。

また、人口減少の抑制、産業振興などにより、財源を確保するとともに、指定管理者制度等、民間活力を活用することで、むだを省いた財政運営に努めます。



第2次丹波市総合計画の体系

基本構想

将来像

まちづくりの視点

基本姿勢

人と人、人と自然の創造的交流都市

くみんなでつなぐ丹(まごころ)の里

1 参画と協働
市民が主役の豊かな地域力

丹波市らしさの創造

人と人の視点

育て合い支え合える 人の
輪づくり

人と自然の視点

人・自然・産業・暮らしが
循環する“源流のまち”づ
くり

交流の視点

来訪者を“丹(まごころ)”
で迎える交流・定住の魅
力づくり

2 行財政運営
計画的かつ効果的な行政経営

基本計画

まちづくりの進め方

1 参画と協働 市民が主役の豊かな地域力の向上

まちづくりの目標

施策目標

1 みんなで支え、育む生涯健康のまち

- 1-1 ライフステージに合わせた健康生活習慣をつくろう【保健】
- 1-2 安心して生活できる医療環境をつくろう【医療】
- 1-3 支え合いのこころを育もう【地域福祉】
- 1-4 高齢者が生きがいを持って暮らせるようにしよう【高齢者福祉】
- 1-5 誰もが主体的に暮らせるまちをつくろう【障がい者・障がい児福祉】
- 1-6 子どもを産み育てやすい環境をつくろう【子育て支援】
- 1-7 安心して介護サービスを受けられるようにしよう【介護保険】
- 1-8 健康と老後の保障を支えよう【国民健康保険・後期高齢者医療・国民年金】

2 誰もが住みたい定住のまち

- 2-1 緑豊かな自然環境を活かし、地域がともに発展するまちをつくろう【土地利用】
- 2-2 公共交通をみんなで支えていこう【公共交通】
- 2-3 人や環境にやさしい道路や河川をつくろう【道路・河川】
- 2-4 丹(まごころ)の里に住みたい快適で安全な住環境をつくろう【住宅】
- 2-5 里山を守り、安全な水道水を安定して供給しよう【上水道】
- 2-6 生活排水施設を適切に管理し、清らかな水環境を守ろう【生活排水】
- 2-7 ごみの分別を徹底し、環境に配慮した循環型社会を形成しよう【ごみ処理】
- 2-8 自然と歴史文化が織りなす里山景観を守り育てよう【景観】

3 あいさつでつながり安心して暮らせるまち

- 3-1 地域のつながりを強めて災害に備えよう【防災】
- 3-2 みんながいつでも安心できる消防体制をつくろう【消防・救急】
- 3-3 交通事故や犯罪を防止する地域をつくろう【交通安全・防犯】

4 美しい自然と環境を大切にする源流のまち

- 4-1 市民ぐるみで環境保全を進め、快適で住みよい丹波市にしよう【環境保全】
- 4-2 地球環境にやさしい社会と暮らしを育てよう【低炭素社会※】

5 ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち

- 5-1 学校・家庭・地域が一体となり、ふるさとに愛着を持った子どもを育てよう【学校教育】
- 5-2 子どもたちが安心して通い、楽しく学べる教育環境をつくろう【教育環境】
- 5-3 地域に開かれ、市民と連携協働で、丹波市の特色ある教育推進に取り組もう【教育委員会機能】
- 5-4 地域ぐるみで質の高い教育・保育を提供し、安心できる子育て環境をつくろう【幼児教育・保育】
- 5-5 一人一人が生涯を通じて学び、鍛え、地域に貢献しよう【生涯学習】
- 5-6 ふれあいを通じてお互いを認め合い、尊重し合う社会をつくろう【人権教育・人権啓発】
- 5-7 男女がともに、家庭・職場・地域・学校で個性を発揮できる社会をつくろう【男女共同参画】
- 5-8 地域の芸術・文化を守り、育て、活かそう【芸術・文化】

6 丹波力を活かした創意ある元気なまち

- 6-1 地域の商工業を守るとともに、未来に挑戦できる企業を支えよう【商工業】
- 6-2 環境創造型農業や循環型林業で丹波ブランドを高めよう【農林業】
- 6-3 おもてなしで来訪者を迎え、丹波市の魅力を伝えよう【観光】

2 行財政運営 計画的かつ効果的な行政経営の実施

